

総務企画防災常任委員会 行政視察報告書

大須賀 幸雄

○愛知県半田市

「マイレポはんだの概要と災害時の活用について」

【所見】

半田市は名古屋市の南、知多半島の中央部に位置し、太平洋からの運河により古くから海運業や醸造業で栄えてきました。醸造業では栃木市や館林市にも主力工場のある食酢で有名なミツカンの本社があります

街は半田運河沿いに、赤レンガの倉庫などが立ち並び、落ち着いたたたずまいの素晴らしい景観が印象に残っています。

さて、視察の目的はスマートフォンを活用して、街の改善に役立てようとすることを目的とした市役所への投稿アプリを、さらに目的を広げて災害時に役立てるというものでした。その名称が「マイレポはんだ」です。

本来の活用目的は、市民が気付いた事柄を、スマートフォンで写真などと共に市役所の送り、送られた内容を役所のほうで精査し、分類して対処することを目的としたものだそうです

市役所に出向かなくても用が済ませられること、どこに伝えたらよいかかわからないことも、一括して気楽に伝えられることが喜ばれて使われているのだそうです。たとえば道路の不良箇所なども場所を地図上にマークし、写真を添付して状況を投稿するという使い方をするのだそうです。もちろんいつでも投稿できますから、投稿されてくる時間は市役所の業務時間外のほうが、開庁時間中より多いそうです。

これを災害時にも現場の状況を投稿してもらい、迅速な対応に役立てようとの取り組みが今回の視察目的でした。

たとえば、津波の発生時に各地の被害状況をいち早く伝えてもらい、市民の安全確保と行動の指針を示すことなどができるようにしようとするものです。

先日、視察直後の10月12日に足利市を襲った台風19号の時などに、このような仕組みを本市でも構築できていれば、各地の被災状況の確認や、危険地域への立ち入りを防ぐこと、また素早い災害復旧にも役立つのではないかと考えます。

また半田市ではこの仕組みを活用して、様々なことへの市民参加の促進、つまり「市民が物事の解決に協力できる案件への支援者を募る」ということを検討

しているとのことでした。これこそまさに災害時のご近所、あるいは広く市民のたすけあいの心を醸成できるのではないかと思います。

本市でも早急の導入を検討すべきと、今強く感じているところであります。

○愛知県高浜市

「市役所本庁舎の整備事業について」

【所 見】

高浜市は建設後40年余経過した市役所本庁舎の建て替えにあたり、その建築手法を自前で建設するのではなく、民間業者により建設されたものを長期に賃借するという事で新しいものとしたということでした

市役所の本庁舎の20年間にわたり、大和リースが建設し保有する施設を、高浜市が借りて庁舎機能を行うという全く聞いたことのない取り組みでした。

しかもその考えの根底には総合的な維持管理のコストの低減だけでなく、民間事業者のノウハウ・能力などを最大限に生かした提案を募るという斬新な考えがあったのだそうです。

市庁舎としての立派なものを求めずシンプルなものとし、庁舎内の各部屋も目的を一つとせず多目的に使う。執務機能を再編し新しいサービス提供のシステムを構築するなど、庁舎建設のみならずソフト面をも見直そうとしたのだそうです。それにより面積も旧庁舎のおよそ半分の延べ面積に抑えたのだそうです。

また、賃借という形を取り入れることで、整備費用を抑えることのみならず、業務のIT化により事務のあり方や、行政サービスの提供にも変化があるものと想定し、リース期間を20年と設定。さらに建物内の設備の更新時期も20年後にやってくるとの考えをもって、再契約時にはそれらの設備の更新を求めていくとの考えをもって臨んだのだそうです。

建築物の耐用年数のまえに、設備の老朽化はやってきます。また新しい機器や省エネ設備などが開発されて人々の生活に入ってきてまいります。

足利市役所の本庁舎も建て替えの議論が上がっています。賃借という形態の是非はともかくとして、これからの本市の計画にも取り入れたい基本的な考えが随所に見受けられました。